

# 水稲栽培での節水に取り組みましょう

令和6年3月15日

三朝町

JA 鳥取中央 中央営農センター  
倉吉農業改良普及所

昨年の大雨被害により、用水不足が心配される地域ではイネが必要とする最低限の水量で栽培し、限られた用水を有効活用しましょう。

- 1 水を無駄にしないよう、水路や畦畔からの漏水防止に努めましょう。
- 2 代かき時には入水量を減らした「浅水代かき」を行いましょう。  
また、水持ちを良くするために、代かきは入念に行いましょう。
- 3 番水をするなど地域で協力しながら、節水栽培に取り組みましょう。
- 4 溝きりを行うことで、少量のかん水でもほ場全体に水が行きわたりやすくなります。

## 水稲節水栽培の目安表

生育段階	時期の目安	用水の必要度	土壌水分の限度
田植期	田植え直後	◎	湛水状態を保つ
活着期	田植後5日頃まで	◎	
有効分けつ期	活着後から中干しまで	△	浅水管理が基本 ※黒乾きまで可
無効分けつ期	中干し時期	▲	白乾きまで
幼穂形成期	出穂前25~15日	◎	黒湿りまで ※飽和状態を保つ
穂ばらみ期	出穂前15日~出穂始め	◎	
出穂開花期	出穂始め~出穂揃い	◎	
登熟前期	出穂開花期後20日頃まで	○	
登熟後期	出穂開花期後20日~落水期 (成熟期前5~7日)	△	黒乾きまで

注) 用水の必要度 ◎:大、○:中、△:少、▲:微 を示す。

## 用水不足の水稲への影響と具体的な節水栽培法

生育段階	用水不足の影響	かん水の方法
田植期	<ul style="list-style-type: none"> <li>活着不良や風害を受けやすくなる。</li> <li>水田に水がない場合、除草剤の効果が低減する可能性がある。</li> </ul>	苗の葉先が必ず水面上にあるように管理する。
活着期		
有効分げつ期	<ul style="list-style-type: none"> <li>分げつが阻害され、穂数が減少するが、畑状態の土壤水分（60%程度）であれば、影響は少ない。</li> </ul>	朝、葉の先端から露が出ている状態で、田面は黒乾き程度。 これを目安に浅水かん水又は走り水を行う。 走り水しやすいように溝きりを行うと良い。
無効分げつ期	<ul style="list-style-type: none"> <li>中干し時期にあたり、多少水分がなくても収量への影響は少ない。</li> </ul>	ほ場の周りの稲が萎凋しはじめたら、走り水を行う。
幼穂形成期	<ul style="list-style-type: none"> <li>一穂籾数の減少や穎花の奇形を招く。</li> </ul>	常時湛水の必要はないが、土壤水分は最低でも飽和状態が必要。 <u>黒湿り状態で手で握れば土がだんご状となる程度を保つようにかん水する。</u>
穂ばらみ期	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼穂が急速に伸長する時期で、最も水不足の影響を受けやすい。</li> <li>花粉の形成ができなくなり、出穂しても一部は白穂となり大幅に減収する。</li> </ul>	
出穂開花期	<ul style="list-style-type: none"> <li>穂の抽出が妨げられて、出すくみになったり、開花や受精が妨げられて不稔になる。</li> </ul>	
登熟期	<ul style="list-style-type: none"> <li>出穂開花後 20 日頃までは粒が急速に発達する時期で、米粒の発育が劣り、粒重が軽くなり、くず米が多くなる。</li> </ul>	前半は田面が黒湿り状態、後半は黒乾き状態の水分を保つように走り水を行う。